



津田左右吉物語⑨

津田事件（その一）

ラジオも電話も取り付けないで研究に明け暮れていた左右吉に、思いがけない事件がふりかかってきたのは、昭和15年の春でした。

極端な国粹主義者みのだむねき蓑田胸喜の主宰する原理日本社は、左右吉の研究著書を「皇室の尊嚴

を冒^{ぼうとく}瀆するもの」として告発しました。これがきっかけとなり、『古事記及び日本書紀の研究』を手始めに、左右吉の著書を次々と発禁処分に追い込んでいったのです。

ちょうどこの年は、日本全国で、紀元2600年の奉祝にひたっているときでした。



雑誌『原理日本』